

公共施設等の現状と今後の課題について＜概要版＞

小樽市は、大正11年の市制施行後も、商工業の発展や周辺町村との合併により、市街地や人口が拡大し、人口増加や高度経済成長の背景の下、市民ニーズに対応するため、学校や市営住宅などの公共建築物、道路、上下水道等のインフラ資産など、多くの公共施設等を整備してきました。

しかし、人口は昭和35年をピークに減少に転じ、人口の減少と合わせて、少子高齢化なども進んでいます。財政面では市税収入の伸び悩み、住民福祉を支えるための経費である扶助費の増大など、取り巻く環境がより厳しくなると見込まれており、現在保有する多くの公共施設等の老朽化対策が課題となっています。

そのため本市では、公共施設等の総合的かつ計画的な管理等に関する基本的な考え方などを示す「公共施設等総合管理計画」を策定することとしました。

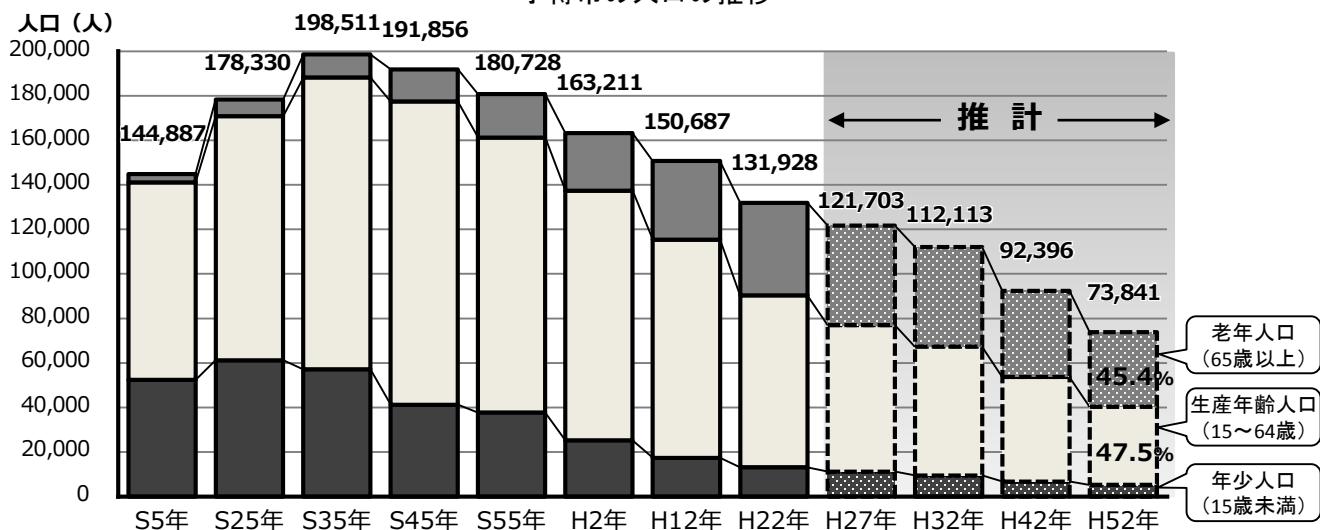
計画の策定においては、まず公共施設等の現状を把握することが必要となることから、これまで小樽市で整備してきた公共施設等について、全体の状況把握と課題の共有を図るため、本報告書を取りまとめました。

① 小樽市の現況

◆小樽市の人団

- 国勢調査での人口は、昭和35年の198,511人をピークに、年々減少しています。国の研究機関によると、これからも人口減少が続き、平成52年には、ピーク時の約37%の約7万4千人になると推計されています。
- また、15歳未満の人口減少と65歳以上の人口増加が進み（少子高齢化）、平成52年には、65歳以上の人口が主な働き手である15～64歳の人口にまで肉薄すると予測されています。

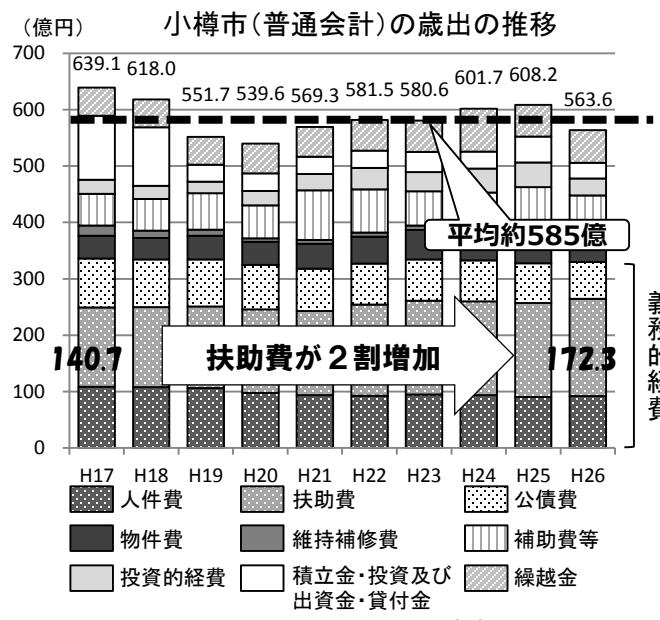
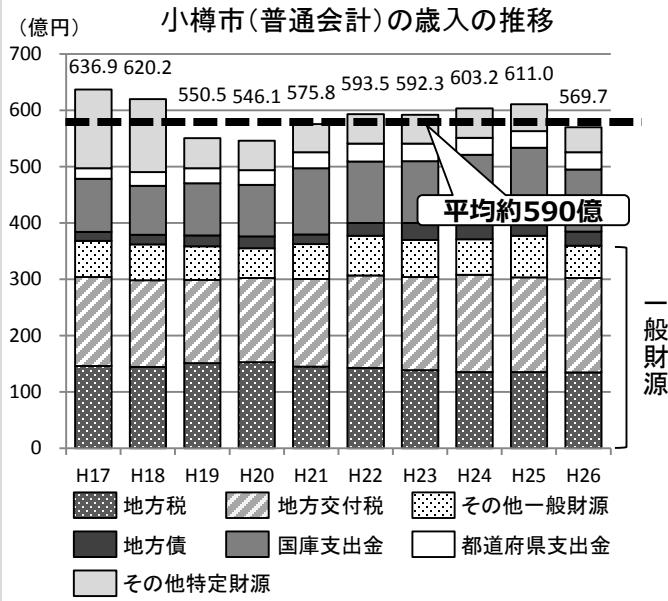
小樽市の人口の推移



出典：各年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計値

◆小樽市の財政（普通会計）

- 直近10年間の歳入の平均は約590億円で、地方税などの一般財源はほぼ横ばいで推移しています。
- 直近10年間の歳出の平均は約585億円で、この10年間で扶助費が2割ほど増え、義務的経費（※）の割合が増加しています。（※「人件費」「扶助費」「公債費（債務の償還や利子の支払いに要する経費）」のこと、固定的な性格の強い経費。）



出典：小樽市の財政資料により作成

◆小樽市の公共施設等の概要

■公共施設等の保有状況

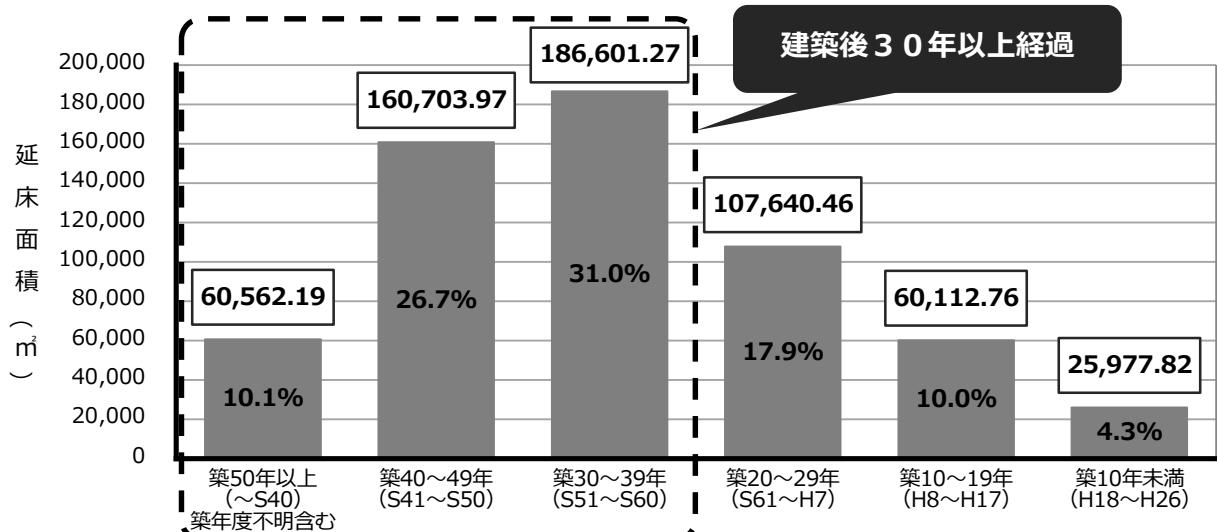
- 平成27年度現在で、市が保有する公共施設のうち、延床面積100m²未満の建物、文化財・歴史的建造物を除くと325施設、延床面積は約60万2千m²になります。
- インフラ施設（港湾・公園を除く）では、一般道路の実延長は約582km、歩道等の実延長は約165km、橋は135本になります。
- 公営企業施設のうち、上水道管の延長は約620km、下水道管の延長は約627kmになります。

区分	施設分類	施設例	施設数	建物数	建物	
					延床面積(m ²)	割合(%)
公共施設	市民文化系施設	市民会館、勤労青少年ホームなど	10	14	18,612.39	3.1
	社会教育系施設	図書館、博物館、文学館など	10	14	18,074.36	3.0
	スポーツ・レクリエーション系施設	総合体育館、観光施設など	16	17	14,428.82	2.4
	産業系施設	産業会館	1	5	3,448.73	0.6
	学校教育系施設	小学校、中学校、学校給食センター	39	85	202,766.33	33.7
	子育て支援施設	保育所、児童センターなど	6	7	4,140.14	0.7
	保健・福祉施設	保健所庁舎、総合福祉センターなど	4	9	6,953.83	1.1
	医療施設	小樽市夜間急病センターなど	2	3	1,160.17	0.2
	行政系施設	市役所庁舎、サービスセンターなど	43	47	66,703.54	11.1
	公営住宅	市営住宅	161	166	225,705.63	37.5
	公園	長橋なえぼ公園森の自然館など	5	5	1,171.96	0.2
	供給処理施設	廃棄物最終処分場、ごみ焼却場など	6	7	6,115.51	1.0
	その他	旧小学校校舎、小樽市葬斎場、市場など	22	43	32,317.06	5.4
インフラ施設	小計		325	422	601,598.47	100.0
	道路	一般道路実延長 582.4km、歩道等実延長164.8km ロードヒーティング 232箇所	—	—	—	—
	橋りょう	135本・実延長 2.5km	—	—	—	—
公営企業施設	小計		—	—	—	—
	上水道	水道管延長 620.2km	34	34	22,257.94	15.8
	下水道	下水道管延長 626.5km	26	27	72,557.64	51.6
	病院施設	小樽市立病院など	3	5	45,793.07	32.6
	小計		63	66	140,608.65	100.0
合計			388	488	742,207.12	—

■老朽化の状況

- 公共施設に関しては、一般的に大規模改修が必要になると言われている建築後30年を経過した施設が、延床面積で約40万7,900平方メートル、全体の約68%を占めています。

建築後の経過年数と延床面積の比較



出典：総務省「公共施設等更新費用算出ソフト」により作成

② 公共施設等の今後の課題について

◆将来の更新費用の推計

- 小樽市ではこれまで公共施設等について、それぞれの長寿命化計画に基づくなど、必要に応じて維持補修や老朽化対策に努めてきましたが、国や全国の自治体と同様に今後多くの公共施設等が一斉に大規模改修や建替えなどの更新時期を迎える、多額の更新費用が必要になると見込まれます。

区分	今後40年間の 更新費用総額 (億円)	直近5年間 の投資的経 費の年平均 (億円)	
		年平均 (億円)	直近5年間 の投資的経 費の年平均 (億円)
公共施設	2,531.8	63.3	16.67
道路（ロードヒーティング含む）	843.9	21.1	7.41
橋りょう	48.8	1.2	0.15
上下水道施設	1986.7	49.7	17.87
病院施設	174.9	4.4	6.06
合計	5,586.1	139.7	48.16

- 総務省が監修した試算ソフトを用い、現在ある施設をそのまま保有し続けると仮定して、今後40年間に必要な公共施設等の更新費用を試算してみました。今後40年間に必要な費用総額は、約5,586億1千万円となります。

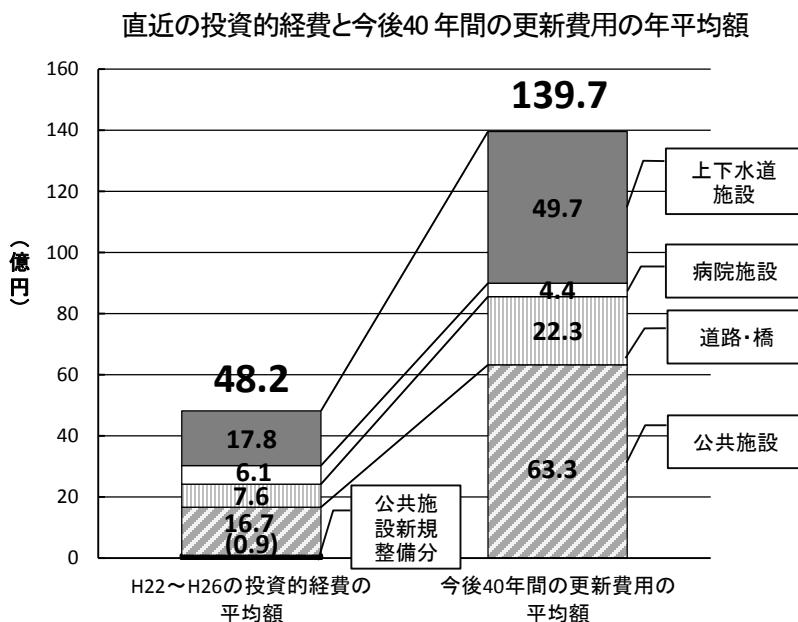
◆将来人口の見通しと市有施設量

- 今後、人口が大幅に減少していく中で、公共施設等の総量を人口に見合った規模に最適化していくことが必要になってくると考えられます。
- また、人口構造の変化は、公共施設等の需要や利用状況にも大きく影響を与えるため、その変化に対応した施設機能のあり方、適正規模の設定などの検討も必要になると考えられます。

◆将来更新費用と財政見通し

- 小樽市の公共施設等は、老朽化が進んでおり、今後、大規模改修や建替えなどに多額の費用が必要になることが見込まれます。一方で、小樽市は厳しい財政状況が続いている、その中から公共施設等の更新費用に充てる投資的経費（※）を捻出していかなければなりません。（※公共施設等の整備に掛けた経費をいい、既存施設の更新、新規施設の整備及び用地取得に要する経費。）

- 公共施設等の更新費用の試算では、直近5年間の投資的経費の年平均額が約48億2千万円であるのに対し、全ての公共施設等の今後40年間の更新費用の年平均額が約139億7千万円と算出され、約2.9倍の費用が掛かる試算結果となっており、現状のままでは対応しきれないことが想定されます。



- 今後、人口減少に伴う税収減や高齢者の増加に伴う扶助費の増大など、財政状況を取り巻く環境がより厳しくなることが想定される中、公共施設等に係る更新費用と財政の見通しについて的確に把握しつつ、どのように維持管理していくかを検討する必要があります。

◆今後の対応・取組について

小樽市では、平成28年度中に「公共施設等総合管理計画」の策定を目指しています。今回御紹介した内容については、詳しくは市のホームページ

<http://www.city.otaru.lg.jp/> に掲載していますので御覧ください。

■お問合せは、財政部契約管財課公共施設グループ

☎ 32-4111(内線385)、FAX 23-0675 へどうぞ。